分野をこえて
考える、

二十一世紀の
学問と社会。

日本科学者会議

THE JAPAN SCIENTISTS' ASSOCIATION

〒113-0034　東京都文京区湯島 1-9-15　茶州ビル 9F
TEL 03-3812-1472　FAX 03-3813-2363　URL http://www.jsa.gr.jp

THE JAPAN SCIENTISTS' ASSOCIATION

1.科学者の良識を発揮して

左上：伊豆大島近海地震調査（1978.2）、左下：創立30周年記念国際シンポジウム（1995.12）
右上：創立20周年国際学術シンポジウム（1985.7）、右下：日の出町ゴミ処分場調査（1997.6）

20世紀は科学技術の急速な発展を生み出した輝かしい世紀でしたが、一方で、二度にわたる過酷な世界大戦、ファシズムや植民地統治などの政治的抑圧、深刻な経済恐慌と広範な貧困によって世界中の人々が苦しめられた大変な時代でした。そうしたもとで、たくさんの人々が平和・人権・民主主義と生活の向上を求め、よりよい社会をつくる懸命な努力をしてきました。とりわけ、人類を破滅におとしいれかねない核兵器の出現は、Ａ．アインシュタインや湯川秀樹などの一流の研究者を含め、広範な知識人を平和運動へ駆り立てました。そこでは、「科学者の社会的責任」という言葉が大変なリアリティをもって語られたのです。

そうしたたくさんの人々の努力によって社会はよりよく進歩してきましたが、現在なお、世界では国家間の深刻な経済格差、貧困と人権抑圧が広範に残っており、地域的な戦争・紛争も絶えることがありません。さらに、科学技術の高度な発展は新しい問題も生み出してきました。大気・海洋・土壌の汚染や地球温暖化など、次々と生まれてきた環境問題は、地球環境を維持しつつ可能な発展をはかるという容易ならぬ課題を我々につきつけています。また分子生物学の著しい進歩は、クローンや遺伝子操作をめぐる新しい生命倫理の確立を要求しています。かつて議論された科学者と社会との関係が、新しい形で問題提起されるようになってきており、こうした問題で果たすべき科学者集団の役割は大変大きなものがあります。

日本科学者会議（JSA）は、戦後の科学者運動を担ってきた先人たちの精神をひきついで、現代が抱える様々な社会問題に対して、幅広い人たちと協力しながら、科学者の知恵と良識を発揮してゆきたいと考えています。

近年の取り組みから

地球温暖化の防止にむけた多数の調査・研究活動

1997年12月に京都で行われた「国連気候変動枠組み条約第３回締約国会議」(COP3)の成功をめざして全国の200以上のNGOを組織した「気候フォーラム」の運営に参加し、学習・講演、資料収集活動に貢献したほか、多数の出版活動、シンポジウムの開催、調査・提言を行ってきました。98年には、日本の環境政策について総合的に研究・提言を行うため、書籍『環境展望』を隔年で発行すること、環境保全活動や研究の発展に貢献できる資料を収録する『環境資料集』の出版活動を行う方針が打ち出されています。

地域環境の保全

沖縄本島北部の名護市沖は、ジュゴンが生息するなど貴重な生態系が保たれていますが、ここに米軍普天間基地移転に伴って海兵隊航空基地が建設される予定となっています。JSAはその周辺地域の調査を1997年5月と11月に二度にわたって行い、基地建設が現地の生態系と住民生活環境全般に多大な被害を与える恐れがあることを指摘しました。その後、環境団体の間でこの問題への関心が高まり、国際自然保護連合(IUCN)が2000年10月、日米両政府に調査と保全を求める勧告を採択するに至ります。

(名護市沖調査、沖縄米軍海上基地学術調査団 1997.11)

薬害エイズ問題でも先駆けて活躍

「今世紀最大の悲劇的な薬事問題のひとつ」といわれる薬害エイズ問題にも、この問題が社会的に注目される以前からJSAは先駆けて取り組みました。23回におよぶ研究会を開き、情報交換・問題の解明を重ね、学者文化人のアピールに協力するなど、真相の究明と事態の解決に力を発揮しました。現在もまた、新たな薬害であるクロイツフェルト・ヤコブ病問題の究明に取り組むなど、薬害根絶を求める取り組みを継続しています。

21世紀の大学像を求めて

JSAは、日本の科学を自主的・民主的に発展させるため、創立以来、たくさんの研究活動を行ってきています。近年も、科学者の権利問題に関する資料と解説をまとめた『科学者の権利と地位』(1995)、大学の理念や原理、現状の問題と改革の課題を総合的に考察した『21世紀の大学像を求めて』(2000)などを出版し、よりよい大学づくりへの提言を続けています。

(『科学者の権利と地位』表紙)

研究の財政的支援

JSAの研究基金は、通常の公的研究費や基金では取り組みにくい研究課題へ助成を行うために1990年に創設されました。この基金を通じて、科学・技術の総合的発展をJSAとして主体的に追求するとともに、将来的にはJSAの枠に閉じこもらない大きな研究活動へ発展させていくことを目指しています。

THE JAPAN SCIENTISTS' ASSOCIATION

2.様々な分野の科学者が集まって

左上・左下・右下：第12回総合学術研究集会 in 新潟（1998.10）
右上：第11回総合学術研究集会 in 沖縄（1996.11）

学問の発展には研究分野をしぼることは不可欠です。しかしそのために自己の研究と学問全体との関わりや社会とのつながりが見えにくくなることはないでしょうか。高度な専門化とともに適切な総合化の取り組みがあってこそ本当の学問の進歩があるはずです。しかし専門分野の異なる人々と議論・交流できる場は、意外に少ないのではないでしょうか。

JSAには、人文・社会・自然科学の多くの分野から約7000人の科学者が集まっています。このように学際的に多数の研究者が集まる非政府組織（NGO）は、国内はもとより国際的にも珍しく、他のNGOには見られないJSAの大きな特徴となっています。その活動は、総合学術誌『日本の科学者』（月刊）の発行や、課題ごとに設置されている研究委員会が行う研究活動、全国各地で開催されるシンポジウムや研究会など多岐にわたります。こうした取り組みの集成として隔年で開催される総合学術研究集会では、全国から分野の異なる大勢の研究者が集まって、活発な研究発表と交流を行っており、社会的に知られていない問題を先駆けて発表することも珍しくありません。私たちは、こうした学際的な研究活動を通じて、社会的・理論的要請に直接応えていくとともに、専門分野の研究のあり方や発展の不均衡を点検し、新しい学問分野の開拓に積極的に寄与していくことをめざしています。

異なる分野の人と対話できる機会がもてることは、多くの会員が実感するJSAの大きな魅力となっています。若い大学院生や研究者が、狭い社会になりがちな研究室を一歩踏み出て、異なる分野の人々と議論する。より広い視野で物事を発想し、次の時代のあるべき学問の姿を模索する。そんな活動にあなたも参加しませんか？

取り組み紹介

分野をこえた学術祭典「総合学術研究集会」

隔年で開催される総合学術研究集会は、分野をこえて全国から大勢の科学者が集うビッグイベントです。社会的に要請されている様々な研究テーマについて、会員一人一人の研究やJSAが組織的に行ってきた研究活動が持ち寄られ、活発な発表と議論が行われます。(写真、左ページ参照)

月刊誌　『日本の科学者』

会員一人一人に配布されるJSAの会誌『日本の科学者』(月刊)は、科学の全分野を網羅した総合学術誌です。編集委員は各分野の科学者が担当し、毎号、様々な分野の最先端の話題を、他分野の研究者にもわかりやすく紹介するよう努めています。

(『日本の科学者』表紙)

国際活動～アジアの科学者とも交流を発展させる

JSAは、国際的な科学者NGOである世界科学者連盟の活動に自主的・主体的に関わっており、2000年8月にユネスコと共同で開催された国際シンポジウムに代表団を派遣するなど、世界の科学者との交流を深めています。近年はアジアの国々との交流を重視して、国際シンポジウム「アジアにおける科学・技術の交流、協力」の開催を行っています。

(ユネスコ・世界科学者連盟など主催の国際シンポジウム「科学、社会そして人権」　カナダ・レジャイナ大学にて)

(サイエンスフェスティバル　関西大学にて)

こんな楽しいイベントも

一般市民や子ども向けのイベントも行っています。第13回総合学術研究集会のプレ企画として行われたサイエンスフェスティバルでは、「科学のおもしろさを知ってもらおう」と、科学に関わる40を超す実験・展示が準備されました。約340人が参加し、ブーメランが飛んだり、熱気球が上がったり、ヒトデの赤ちゃんのかわいらしさにビックリしたり、化石のレプリカや草木染めを楽しんだり、大人も子どもも一緒になって、楽しく過ごしました。(2000年11月)

THE JAPAN SCIENTISTS' ASSOCIATION

3.JSAは若いあなたの成長を応援します

左上・左下：東京支部開催の企画「研究者を目指す若い人たちへ」(2000.5)
右上・右下：1999年度開催のJSA若手夏の学校の様子（1999.8）

みなさんはなぜ大学院に進学したのでしょうか。「誰も知らない新しいことを発見することへの達成感」「社会問題の解決に貢献したい」「就職する前にもう少し勉強してみたいと思った」など、様々な理由があるでしょうが、将来に対して何かしらの夢を抱いて進学したという点では共通するのではないでしょうか。一方で、「自分は研究者にむいているのだろうか」「学部のときと勉強の仕方が全然違い、どうしてよいかわからない」「研究室の仲間や指導教官との人間関係がうまくいかない」など、描いた夢とは裏腹に、たくさんの悩みを抱えがちなのもこの時期の特徴です。そんな悩みを普段から友人たちと話し合えればいいのですが、自分もまわりも研究に忙殺されて、ひとりで抱えこんでしまいがちなのではないでしょうか。

JSAは、そうした大学院生・若手研究者の悩みや模索に応える取り組みを重視しています。毎年好評の「夏の学校」では、異なる分野を専攻する院生・若手研究者が全国から集い、お互いの研究の紹介・ベテラン研究者からのメッセージ・研究の方法についての議論など、充実した内容で活発に交流しています。専攻の違う仲間どうしが、研究の動機や狙い、その方法について話し合うことは、「自分の研究を進める上で良い刺激になる」「議論する時間がもっとほしかった」と、多くの人にとって、研究室だけでは得られないとても新鮮な経験のようです。

「夏の学校」以外にも、若手向けの企画を全国各地で適宜開催しているほか、メールニュースやホームページ上の掲示板を通じた日常的な交流もはじめています。今後も、多くの人に開かれた魅力的な活動になるよう、努力していきたいと考えています。

学術掲示板「アカデメイア」

2000年10月から開始された、若手のホームページ（http://www.jsa.gr.jp/wakate）では、学術的な情報交換をいつでもどこでもできるようにすることを目的とした掲示板「アカデメイア」を開設しています（2001年2月現在、試験運用中）。一般市民からの質問もあれば、院生どうし、知識人どうしの議論もあり、様々な用途で活用されています。非会員も投稿できますので、みなさんもどうぞ議論にご参加ください。

（Webページ「学術掲示板アカデメイア」）

あなたも日本科学者会議へ入会しませんか？

JSAの魅力は何といっても他分野の人たちと仲良くなれることです。日本にはこうした場はなかなかありません。普通ならお話できないような立派な研究者の方々が会員だったりして、JSAの活動だと対等に話し合えるのも隠れた特典です。

とはいえ、JSAはただの交流団体ではありません。異なる分野の人々の交流の場として機能しながら、様々な社会問題に対して科学者の知恵と良識を発揮していくことが、本会の最大の目的です。そうしたことを真剣に考えようとする誠実さと人間的魅力にあふれた人たちの集団であるということも、日本においてはかけがえのない本会の特徴であり、魅力となっています。

会員になったら

会誌を受け取り、時おり開かれる様々なイベントに参加するだけでもかまいませんが、意欲のある方は、自分自身で研究会を立ち上げたり、既に設置されている研究委員会に参加することをお勧めします。そうしたことを通じて、自己の専門と社会との関係を深め、成果を外へ発信していくことが、あなたの人生にとても大きなやりがいを与えてくれることでしょう。また、そのなかでこそ信頼できるたくさんの仲間たちにめぐりあえることでしょう。

「夏の学校」参加者の感想から

★他の参加者の皆様のご意見、お考えを伺い、分野を越えて共通している点、分野ごとの問題点などについて「目からうろこ」が落ちるような思いもしました。これから自分が研究を進めるにあたって、大いに参考にさせていただこうと思います。

★どれもほんとうに考えさせられ、ためになったと思います。正直こんなにおもしろいとは予想していませんでした。

★『研究の方法を考える』という題での討論は、若手研究者・大学院生の悩み打ち明けコーナーにもなっていたようで、全国の院生を身近に(?)感じることができました。

★夜に催された交流会（これが最も楽しみだった）では、他の大学の院生等と交流した。そこでは「研究テーマの設定」「研究の進め方」「卒業後の進路」といった、どの院生も共通に抱えている問題が話題の中心となっていると感じた。日頃周りにいる院生とは、そうした話題について意見交換することも少ないので、大変参考になった。

日本科学者会議会則

科学を人類に役立て正しく発展させていくことは、わたしたち科学に携わる者の共通の任務です。

わたしたちは、日本の科学の進歩と平和・独立・民主主義・人びとの生活向上のために努力してきた科学者の伝統をうけつぎ、科学の発展を妨害するものとたたかい、科学を正しく発展させ、科学者の責任をはたすため、専門別、地方別などのわくをこえ、世界観や研究方法のちがいをこえ、日本の科学者の誇りと責任の自覚にたって、日本科学者会議に結集します。

この会は、会員ひとりひとりの創意と自発性が発揮できるように、民主的に運営されなければなりません。すべての会員は、会がその目的をよくはたすことができるように、力をあわせる義務をおいます。

1．名称

第1条 この会の名称は「日本科学者会議」で、全国事務所を東京におきます。

2．目的および事業

第2条 この会は、つぎの目的をかかげます。

(1) 日本の科学の自主的・民主的発展につとめ、その普及をはかります。

(2) 科学者の生活と権利をまもり、研究条件の向上と研究の組織・体制の民主化につとめ、学問研究と思想の自由をまもります。

(3) 科学における各分野の相互交流をはかり、自主・平等の国際交流をすすめます。

(4) 科学の反社会的利用に反対し、科学を人類の進歩に役立たせるよう努力するとともに、国内国外の平和・独立・民主主義・社会進歩・生活向上のための諸活動との連帯をつよめます。

(5) これらの役割を将来に向けてになっていく科学者を育成します。また、広く科学的精神をもった青年の育成につとめます。

第3条 この会は、前条の目的をはたすため、つぎの事業をおこないます。

(1) 機関紙誌その他の文書の発行 (2) 研究会、討論集会、講演会の開催 (3) 海外との学術交流 (4) その他この会の目的をはたすために必要な事業

3．会員

第4条 この会は個人加入の全国単一組織です。

第5条 この会は会則をみとめ所定の会費をおさめる科学に携わる者（研究者、教育者、技術者、医師、弁護士、大学院生など）を会員とします。入会には、会員一名の推薦と、支部の承認を要します。

第6条 会員は会のすべての事業に参加でき、機関紙誌の配布をうけます。

第7条 会の目的に反したり、会費を一年以上滞納したばあいは、支部の決定により、会員の資格を失います。その決定に不服のばあいには、幹事会に異議を申したてることができます。

4．機関

第8条 (1) この会の最高機関は大会であり、定期大会は二年に一回幹事会の招集によってひらかれます。

ただし、幹事会が必要と認めたばあいには、臨時大会をひらくことができます。また会員総数の三分の一または支部の三分の一が要求するばあいには、臨時大会をひらかなければなりません。

(2) 大会は、運動方針、予算、会費の決定、決算の承認、幹事および会計監査委員の選出をおこないます。

(3) 大会は支部から選出された代議員によって構成され、代議員の過半数の出席によって成立します。大会の決定は出席者の過半数の賛成を必要とします。代議員の選出方法は別に定めます。

第9条 (1) 幹事会は大会の決定にもとづいて会の運営にあたります。

(2) 幹事会は幹事の過半数の出席によって成立し、決定は出席者の過半数の賛成を必要とします。

(3) 幹事会は代表幹事若干名および常任幹事若干名を互選します。

(4) 代表幹事は会を代表します。代表幹事は常任幹事会の提案により二年に二回以上幹事会を招集します。代表幹事は常任幹事会に出席することができます。

(5) 常任幹事会は幹事会で互選され、幹事会の任務を代行し、この会の日常業務を処理します。常任幹事会のもとに事務局をもうけ事務局長、事務局次長をおきます。事務局長、事務局次長は常任幹事会で互選します。

第10条 この会は都道府県ごとに支部をおきます。支部大会は一年に一回以上ひらかれます。支部幹事は支部大会で選ばれ、支部幹事会は支部代表幹事若干名を互選します。

第11条 支部には原則として地域別または職場別に分会（または班）をおきます。

第12条 この会は全国および支部に、科学上の理論的課題の究明のための研究委員会をもうけ、また科学者の当面する社会的・政治的・経済的課題にこたえるための問題別委員会をおくことができます。これらの委員会の運営上の責任は、それぞれの幹事会がおいます。

第13条 会に関する重要事項について意見をもとめるため、参与をおきます。参与は、会の創立と発展に貢献した科学者のうちから、幹事会が推薦し、大会で承認をうけます。

5．財政

第14条 この会の財政は、会費、事業収入および寄付金でまかないます。

6．付則

第15条 この会則は、大会出席者の三分の二以上の賛成により変更することができます。

（1965年12月4日創立発起人総会で決定、同日施行、第5回大会、第10回大会、第24回大会、第30回大会、第32回大会で一部改正）

――――――――――――――― キ リ ト リ セ ン ―――――――――――――――

入 会 申 込 書

年　月　日

氏名	和　字	印	男 女	生年月日	年 月　日
	ローマ字				
自宅住所	〒 TEL（　　）				
勤務先等	名　称		職名		
	所在地	〒 TEL（　　）			
Eメールアドレス					
専門分野		所属学会等			
研究テーマ					
推薦人氏名	印				